

平成29年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
むらづくり部門

日本の里山のモデルを目指したむらづくり

○集団等の名称 特定非営利活動法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会  
(代表 武藤 一夫)

○所在地 福島県二本松市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

二本松市の東和地域は、福島県中通り北部の阿武隈山系の山々に囲まれ、狭い谷に沿って集落等が点在する典型的な中山間地域であり、耕作地の標高は、200mから600mに位置している。

かつては、県内屈指の養蚕地帯であったが、生糸の輸入に押され、生産は激減し、現在は、地域の気候や環境を生かした野菜や米を中心とした農業生産が行われている。

・むらづくり組織の概要

- ① 市町村合併や農協の合併が進められる中、東和地域の農業衰退を危惧した地域の青年農業者の呼びかけにより、個々に活動していた農業者団体、市民団体が統合され、平成17年に「特定非営利活動法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会」(以下「ゆうきの里東和」という。)を設立した。
- ② 市町村合併後の平成18年に、ゆうきの里東和が二本松市から道の駅「ふくしま東和」の指定管理を受託し、ここを拠点に様々な活動に取り組んでいる。このことが地域に刺激を与え、ワイン醸造会社も設立されている。

・むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

- ① 畜産農家と連携し、オリジナル堆肥「げんき1号」を開発している。さらに、この堆肥を利用して栽培し、細かな基準をクリアした野菜を独自認証ブランド「東和げんき野菜」に認定し、道の駅等で販売している。
- ② 養蚕業衰退後の遊休桑園を解消し、桑を活用した加工商品の開発・販売による6次産業化に取り組んでいる。また、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故後、より安全な桑商品を開発するため、桑の改植を行い、自ら加工所を設置し、桑の葉パウダーを生産している。
- ③ 福島第一原子力発電所事故後、野生の山菜が出荷できないため、ワラビの栽培等にも着手している。

(2) 生活・環境整備面

- ① 多くの大学や企業から支援を受けて「震災復興プログラム」を作成し、環境、農産物、健康の面における放射性物質を測定・公開し、消費者が判断できるようにしている。
- ② 宿泊希望者への農家民宿の紹介や新規開設の支援に取り組んでおり、平成29年3月現在で22軒が営業している。また、外国人の研修受入なども行っている。
- ③ 就農・移住希望者向け説明会に参加し、情報発信に努めている。また、移住者が地域に溶け込めるように地域全体でサポートし、相互の英知を結集した地域づくりを進めている。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、桑を活用した特産品の商品化や有機栽培野菜など独自認証ブランドの生産を行っており、東日本大震災後もいち早く復興に向けて活動している。また、都市と農山漁村の交流、移住推進にも成果を上げている事例であり、今後の発展が大きく期待できる。

衰退した養蚕業、原子力発電所事故などの困難な条件を克服し、地域資源や地域特性を活かした自主的努力と創意工夫を図っており、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。